

平成30年度NACCSプログラム変更要望一覧（その他案件）

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-001		TYC	他所蔵置許可申請（TYC業務）を申請する前に申請内容をチェックする為申請の入力控を事前に出力して頂きたい	他所蔵置許可申告（TYC業務）の控が出力がされない。	他所蔵置許可申告（TYC業務）の申告控えを出力して頂きたい（控の出力がされないため、業務の出力がされるようにして頂きたい）		入力控を出力するためにはTYC業務の事項登録業務が必要となりますが、事項登録業務については、更改WGにおいて検討した結果、追加しない事としています。なお、入力画面に必要項目を入力→送信フォルダーに保存→印刷プレビューを行う事で、事前に確認する事は可能です。
H30-002	石油製品等移出（総保出）輸入申告事項登録	MWA	MWA業務に貨物情報を利用しない移出再移入承認申請の機能を追加して欲しい。	A保税工場で生産された保税工場製品をB保税工場に移入する手続きは第5次、第6次NACCSともに対応しておらず、マニュアル申請を余儀なくされている。今後、原則NACCSで申請するよう法改正された場合、第6次NACCSでは対応できていない。そのため、申請と許可書回収で1日2回税関に届出なければならず、約1時間30分を移動の為無駄に使用している。	MWA業務に移出再移入承認申請（再IM）の機能を追加するか、貨物情報を利用しない再IM申請の機能を新設して欲しい。	将来の原則NACCS化にも対応できるし、移動時間を他の業務に使えるため、効率が上がる。	IDA、SISで最初蔵入等承認年月日に入力がある再IM申請では、貨物情報は不要で申請が可能です。貨物情報が必要な場合は、保税工場がシステム不参加ではSCR業務、システム参加蔵置場ではBIB業務にて貨物情報を作成する事で対応すること可能となります。MWA業務は石油のIMW申告のための業務であり、再IMでは利用できません。
H30-006	関係省庁業務（例：食品等輸入届出書）	IFC	輸出入許可通知情報データと同様に、関係省庁業務のEDI受信（ゲートウェイ接続）のebMS処理方式による対応	現在、荷主は輸出入許可通知情報データを受信することが可能になっており、この機能により通関業者よりも早く許可通知書を手入し、社内の統計等にも活用出来ている。本機能は荷主として最大のNACCS参加メリットと言える。しかしながら、関係省庁業務（例：食品等輸入届出書）は現在でも直接入手することができない状態となっている。	これら関係省庁業務も同じように荷主が直接受信できるようにしていただきたい。また、技術的な面では輸出入許可通知情報は国際標準のebMS処理方式という通信処理手順で受信しており、これと同様に、関係省庁業務の送受信に対してもebMS処理方式で受信できるようにしていただきたい。加えて輸出入許可通知と同様に二重出力機能の対象に加えていただきたい。		関係省庁に確認した結果、申請者以外への情報出力を行った場合、運用面での問題が生じる可能性があるとのことであり、実施は困難です。
H30-007	関税割当登録業務	TQA	TQA（関税割当証明書内容登録）業務の文字種類制限の緩和	『第6次電算関税関係業務事務処理要領（暫定版）税関手続関連（共通編）共通手続 第1章 総括事項第17節 関税割当に係る数量管理手続 1 関税割当証明書内容の登録』では「関税割当証明書番号」では、『「.」』（ピリオド）、「-」』（ハイフン）、「第」及び「号」等の英数字以外の文字については省略したうえで入力すること。』となっているが、これでは「1-11」「11-1」「11.1」の区別がつかない。また、「.」』（ピリオド）、「-」』（ハイフン）がないため、番号確認の際に可読性を著しく損なっている。※「関税率表番号」も同様である。	「関税割当証明書番号」「関税率表番号」について、「.」（ピリオド）、「-」（ハイフン）等を可とし、極力オリジナルに近い番号を使用してほしい（「第」「号」等の漢字は不可で構わない）。		システム上は入力可能であり、税関における運用上の取扱いとなります。なお、財務省・税関に要望を伝えた結果、入力制限は解除することとし、既に「電算関税関係業務事務処理要領」において修正が行われています。
H30-008	輸出申告事項登録 輸入申告事項登録	EDA IDA	IDA、EDA業務での、海上と航空の画面の展開方法について	IDA、EDA業務において、新規業務で展開した際、種別がプルダウンで展開されるが、種別コード横の日本語表記が「輸入申告」などだけ記載されていて、AirなのかSeaなのか日本語表記だけでは判断ができなくなっており、業務で混乱が発生した。 また一方で、AMA業務（修正申告）のように種別は画面展開前には選べず、入力画面展開後、海上と航空を選べるようになっている。	IDA、EDA業務の新規業務を行う際の、種別プルダウンの日本語表記に海上か航空かわかるように追記を行ってほしい。もしくは展開後に、海上か航空の種別を選べるようにしてほしい。 追記例：航空輸入申告の場合 現状：AID（輸入申告）⇒プロ変後：AID（航空輸入申告）	海上と航空業務は、多くの通関業者は分けて事業所を持っているため、通関を行うための基本画面であっても、3コードで制限される種別まで理解できている従業員は少なく、海上と航空を業務画面内で切り替えられるものについては、この業務以外でも、わかりやすく切り替えられるようすることで、業務上の混乱も防げ、センターへの質問も軽減されるものと思われる。	同趣旨のご要望は他にはなく、習熟の問題と思われるので、費用対効果の観点から実施しません。なお、種別の一桁目（A:航空、S:海上）で確認を行っていただければと思います。
H30-011	輸出申告事項登録 輸入申告事項登録	EDA	輸出申告事項登録（EDA）の入力画面にて「記事（税関）」項目（140桁）があります。NACCSソフトの画面では2段表示となっておりますが、1段目71桁、2段目69桁と桁が揃っていません。わかりにくいので、1段目70桁、2段目70桁 に揃えて表示するよう修正して下さい。大額、少額ともに同じ状態です。	輸出申告事項登録（EDA）の入力画面にて「記事（税関）」項目（140桁）があります。NACCSソフトの画面では2段表示となっておりますが、1段目71桁、2段目69桁と桁が揃っていません。	輸出申告事項登録（EDA）の入力画面にて「記事（税関）」項目（140桁）があります。わかりにくいので、1段目70桁、2段目70桁 に揃えて表示するよう修正して下さい。大額、少額ともに同じ状態です。	外部ファイル取込機能を利用していますが、「記事（税関）」項目（140桁）は、70桁+70桁を想定してテキストを生成しております。71桁目が2行目の先頭になる筈が、現状は1行目の最後尾となりズレて表示されます。外部ファイルを修正すれば良いのですが、1段目71桁、2段目69桁と桁が揃っていないのも見栄えが悪いので、1段目70桁+2段目70桁の表示にして頂きたいです。	現時点で変更を行う場合、自社システムへの影響が大きいため実施しません。EDA、IDA共に1段目は71桁となっております。申告控、許可書も全て入力通り1段目71桁となっております。出力されます（第5次NACCSから変更はありません）。
H30-012	管理資料情報（151） 輸入申告一覧データ	管理資料	管理資料情報（151 輸入申告一覧データ）の仕様書記載内容について	CSVフォーマットの項目見出し（横列）に”臨時開庁識別”とありますが、仕様（出力項目表）では”予備”（項番52）となっております。	項目見出しは（仕様書を見なくても）値が出力されないことが理解できるように例えば”（予備）”などの名称に変更してほしい。		項目名を変更した場合、他の利用者へ影響が生じるため、実施しません。
H30-013	輸入申告事項登録 輸出申告事項登録	IDA EDA	数量（1）、数量（2）	・統計計上単位以上と未満の数量を分けて入力できない ・千単位の区切り「.」と「.」の文字が小さく間違いやすい	統計計上単位以上と統計計上単位未満の入力項目を白抜き、色刷り部分に分けて記入・入力が行えないでしょうか	例えば統計計上単位未満の数字は計上以上の数字より小さく表示されるようになれば一目で確認しやすい。	申告書の項目分割は自社システム影響も含めて影響が大きいため実施しません。また、フォントサイズは項目ごとに設定のため、途中での変更は出来ません。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-014	輸出入者情報照会	IIE	輸出入者の検索方法	検索方法が輸出入者名の方前一致のみである	検索を前方一致から部分一致へ及び住所によるフィルタリング	検索精度の向上	部分一致等の検索はシステム負荷が大きくなるため実施しません。なお、NACCS揭示板のコード集において、テキスト版を提供しており、同情報を利用することで部分一致での検索も可能です。
H30-015	修正申告事項登録	AMA	修正申告を行う際、AMA/AMB入力時に、「修正申告（本申告）予定日」という欄を新規に設け、その欄に入力した日に準じた延滞税額が表示されるようにしてほしい。	修正申告を行う際、延滞税額についてはAMA/AMBを送信した当日の延滞税額が反映されており、本申告を行う未来の日付における延滞税額を知ることが難しい。	AMA、AMB入力の際、新規に「修正申告（本申告）予定日」の欄を設け、修正申告入力時に「修正申告（本申告）予定日」に入力した日における延滞税額が表示されるようにしてほしい。またAMC「修正申告（本申告）業務」で出力される関税修正申告控（内国消費税控兼用）にも延滞税額が表示されるようにしてほしい。納付にタイミングの関係で表示が困難ということであれば、別様式の出力を検討し、そちらに表示いただきたい。		項目追加は自社システムへの影響が大きいことから実施しません。本申告を行う日に再度AMBから呼出しAMAを行う事で、申告日に納税された場合の延滞税額が出力されます。また、ICD業務で納付予定日での延滞税額を確認する事が可能です。
H30-018		H01 I51	CBD5100 I51輸入申告一覧データ CBE5100 H01輸出申告一覧データ	管理資料取り出しを1回/月行っていますが、その情報の中には「貿易形態別符号」と「コンテナ本数」のデータがありません。	追加をお願いします。	申告実績を集計する際、コンテナ本数実績を集計でき、船会社に対する価格交渉に利用できること。	管理資料の項目追加は他の利用者様への影響が大きいこと、また、費用対効果が見込めないため実施しません。
H30-019	輸入申告事項登録	IDA	IDA時の食品届の入力件数の訂正	食品届の件数を誤って入力した際に、以後の訂正入力が不可能である。	第5次NACCSと同様に、訂正を可能とする。	事務量の削減	本仕様に関しては第5次NACCSから変更していません。共通管理番号にリンクする申請数を増やす場合は、IDA業務にて件数修正後、IFA業務を実施して下さい。リンクする申請数を減らす場合は、IFA業務にて共通管理番号とのリンクを外した後、IDA業務にて件数修正をして下さい。
H30-020	輸入通関	IDA	輸入許可前引取承認申請の事項登録の際に担保番号が入力されていない場合はエラーとするか、担保番号が入力されているかどうかを入力控えて判明出来る様にして欲しい。	輸入許可前引取承認申請の事項登録段階もしくは申告後、担保番号が入力されているかどうか分からない。	輸入許可前引取承認申請の事項登録の際に担保番号が入力あされているかどうかを入力控えて判明出来る様にして欲しい。	申告後の担保不足を解消出来る。	輸入許可前引取承認申請時にチェックは行われています。また、入力控への出力は影響が大きいため実施しません。なお、照会業務で確認することは可能となります。
H30-021		IDA → IDE	輸入申告外貨物判明時の申告訂正方法	①輸入 税関検査（又は申告中）において申告外貨物が判明 ↓ ②仕分けして、一部を先に申告、許可をする際はマニュアルで行う ↓ ③残り（出切り）は、システムで申告許可	②についても、システムで申告（当初申告をIDDで変更 IDEで申告）し、許可となるようお願いしたい	緊急対応になることが多い中、マニュアル申告では、税関、通関業者に時間と手間がかかります。また、ミスの軽減にもなる	お申し出の事例については、申告中にSHS業務で仕分けした後に、申告変更にてB/L番号を仕分け後B/L番号に変更する事で対応が可能です。
H30-022	輸入申告事項登録 輸出申告事項登録	IDA EDA	法人番号で直接入力した場合に、紐付けが出来ているのかどうかの判別が出来ないため、判別出来る仕組みへの変更。（IDA、EDA）	第6次NACCSでは法人番号で申告することとなっている。 IDA、EDA作成時に法人番号で直接入力した場合、手入力での作業となるため、輸出入者番号との紐付けが出来ているのかどうか書類上では分からない。	法人番号から直接入力した場合でも、輸出入者番号をお持ちで紐付けているのかどうかの、識別出来るような表示が出来ないのか。	法人番号からの直接入力の場合には手入力となるため、恰も紐づいているように見えるが、実際に紐づいているのかどうか確認ができる。	法人番号を入力し、社名を手入力した場合は、入力控の「輸入者名入力識別」欄に「*****」を出力する仕様としています。また、JASTPROコード等と紐づいている場合は社名、住所が補完される事から、紐づいているかどうかの確認ができます。なお、IIE業務で法人番号17桁入力する事で、紐づいている輸出入者番号を照会する事も可能です。
H30-023		IDB IDD	IDB、IDD	入力控出力後、若しくは予備申告後に、IDB、IDDで貨物情報通りに訂正する際、これまでは入港日を削除しブランクにして送信すると、貨物情報にある入港日が自動補完されていたが、更改後は補完されずブランクのままとなってしまふ。	これまで通り、自動補完して頂きたい。	入力業務の簡素化。	第6次NACCSでは、従来の航空機能と同様に、海上においても入港年月日をブランクとした際には、本申告時に貨物情報から自動補完するように変更を行っています。
H30-025	輸入通関	IDC	輸入申告	輸入申告で申告入力控え画面から申告する際、一般特恵が適用できるにもかかわらず、その適用をしていなかった場合、特恵適用確認“W0018”のエラーコードがかかり、そのままの画面では申告できないようになってきている。 それ自体は有効な仕様であると感じるが、基本税率が有税、WTO税率が無税のものにも同じ処置がなされている。 そのため、基本的に特恵税率を使う必要のないWTO税率無税のものも、その都度「IDC」の業務コードに変えて申告しなければならない。	HSコード4819項など、WTO税率で適用税率が無税となっているものについては、特恵適用確認のエラーコードが出ない仕様にならないでしょうか。	WTO税率で適用税率が無税のものは結構な頻度で出てくるので、その都度画面を切り替える必要が無くなることで、スムーズな申告を行う事が出来る。	「W」から始まるエラーコードは注意喚起を促すワーニングメッセージであり、申告内容に問題が無ければそのままの画面からIDCを行うことは可能となっています。
H30-026	輸入通関	IDD	予備申告から本申告への切替における申告内容変更	大阪税関本関で予備申告し搬入が18時以降になる場合、現行では一度申告を取止め、再度、南港出張所特選に申告しなおさなければならず、予備申告の審査済み情報が反映されない等予備申告の意味がない。	予備申告後、許可までの間に申告官署（4A→4I等）の変更ができるよう（取止めを変更可）にしていただきたい。	予備申告を利用した迅速な通関が期待できる。	ご要望については、税関にお伝えしますが、現状では税関の運用に支障があるため実施は困難です。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-027	輸出申告等一覧照会 輸入申告等一覧照会	IES IDI	IES:輸出申告等一覧照会 IDI:輸入申告等一覧照会	現行は、申告官署、申告先部門、蔵置官署、蔵置部門等を入力しなければならない。(申告官署等単位のデータの照会になっている。)	(第1希望) 通関業者欄に利用者コードのみ入力すれば、当該利用者コードで申告したデータが全て照会されるようにしてほしい。 (第2希望) 申告官署等を入力するために再度初めから業務を実施するのではなく、照会画面から申告官署等を選択し入力し展開できるようにしてほしい。 (第3希望) 通関コードを入力すれば、当該通関士が申告したデータが全て照会されるようにしてほしい。 (第4希望) 輸出入者コードを入力すれば、当該輸出入者名で申告したデータが全て照会されるようにしてほしい。	第1希望の効果：申告官署等に当該業務を実施する手間がなくなる。又照会漏れを防ぐことが出来る。(自由化後は申告官署の選択範囲が広がるので申告官署等が現在より増えるため。) 第2希望の効果：最初から業務を実施する手間がなくなる。 第3希望の効果：申告を行った通関士が状況を把握しやすくなり、後続業務の漏れを防ぐことが出来る。 第4希望の効果：輸出入者ごとの状況を把握しやすくなり、後続業務の漏れを防ぐことが出来る。	ご要望に関しては、以下の理由により実施しません。 第1希望：システム負荷が大きいため、困難です。 第2希望：引継ぎ情報がある場合があるため、システム上対応は困難です。 第3希望：証券番号での検索項目は無いいため、項目追加は影響が大きく困難です。 第4希望：項目追加は影響が大きく困難です。
H30-028	食品届	IFA	食品等輸入届出事項登録	検査所からの連絡書は文字数制限がある為、用紙が1行ずつ発行される。そのため連絡事項が多い時は複数の用紙で出力され、連絡内容が分かりづらいことがある。また、他の連絡所と一緒にになったとき、連絡所同士のつながりが取りにくい。	検査所からの連絡欄の文字数制限を無くして1枚で発行されるようにしてほしい。	たくさんの連絡がある場合でも紙1枚で出力されることで連絡事項が把握しやすくなり、連絡漏れ防止や、用紙の節約につながる。	検査所との連絡については、第6次NAOCSから新たに提供している「食品等輸入届出双方履歴照会：CFH」をご利用ください。
H30-030		MSF01	通関系関連運着付添付登録（検査所（食品）） MSF01	初回輸入の分析資料などを添付して申請する業務ですが、送信した後の一覧確認ができない状態です。	輸出入申告のMSX業務ではIMS、申告添付一覧照会情報という業務コードで添付した資料を確認することができます。食品申請添付業務のMSF01にもこのIMSと同じような添付一覧が確認できる業務コードを新設願います。	添付送信した書類の一覧が分かれば送付忘れなども防げます。	MSX業務のように、添付した資料の一覧を確認できるようにするためには、MSF01業務における添付ファイルの保存方法、業務運用の考え方から見直すこととなり、全面的な業務作り直しが必要となるため、実施しません。また、影響範囲が検査所（食品）にもおよび、検査所（食品）の添付ファイルの確認に関する運用、業務を変更する必要もあります。
H30-032		MSX MSB	MSX MSB	添付書類は、複数ファイルをまとめて添付することが出来ない。	まとめて一度に添付出来る仕様として頂きたい。	業務効率の向上が期待できる。	パッケージソフトでは既にドラッグアンドドロップや複数選択ができるため、ご要望については対応済みと考えています。なお、zipファイルでの添付はウイルスチェックを行うため実施できません。
H30-033	申告添付登録	MSX	添付書類コードの増設	添付書類のコードが少ない	添付書類のコードを増設していただきたい。特に他法令関係。	添付書類の識別が明確化される	他法令は「0L」1つですが、ファイル名を付与する際に食品用、補防用と明確化する事が可能です。
H30-034	輸出入通関	MSX	MSX後の審査状況が判明するようにして頂きたい。	MSX後「COMPLETION」と出力されるのみでその後の審査状況がわからず税関に電話で確認することがある。	審査を始めた時間、審査官の名前等が利用者側で確認できるようにして頂きたい。	電話での無駄なやり取りが無くなり、また許可後の手配等がスムーズとなる。	ご要望については、税関にお伝えしますが、現状では税関の運用に支障があるため実施は困難です。
H30-035	輸出通関	MSX	特定輸出許可の取消し申請がシステムで申請出来るようにして頂きたい。	「特例輸出貨物の輸出許可取消申請書」税関様式C第9100号に必要書類を添付し、申告官署の通関担当部門に原本を提出している。	特定輸出許可の取消し申請がシステムで申請出来るようにして頂きたい。	迅速かつ円滑な処理手続きが可能になり、また、申告官署自由化に則し、特定輸出者の優遇性を十分に活かすことが出来る。	ご要望については、既に汎用申請業務として対応しています。申請手続種別コード：GE6
H30-036	申告添付訂正	MSY01	MSY01業務 申告添付訂正	輸入許可（区分1Y）後、MSX業務で送信した添付ファイルに不備があった場合、MSY業務でファイルを削除・追加入れないため、窓口提出に変更する必要がある。 (許可・承認となった後のファイルの差し替え等の訂正は、システム上実施不可)	区分1Yの場合は許可・承認となった後もシステムでファイルの差し替え訂正が出来るようにして欲しい。	原産地証明書等原本が必要になる場合もあるが、これによりPDFでの提出が可能となり通関業者や輸入者の負担が軽減される。	ご要望については、税関にお伝えしますが、現状では税関の運用に支障があるため実施は困難です。
H30-037	検査指定	税関業務	税関検査指定票の出力タイミング	予備申告時に税関検査指定した貨物情報が本申告時に変更になった場合、税関に赴き訂正が必要	予備申告時の他、本申告時にも検査指定票を出力する。	訂正の為に税関に税関に赴く必要がなくなり、税関手続きの電子化が促進される	要望時点から運用の変更が行われているため、プロトタイプは実施しません。運用変更後の実態を踏まえ新たな要望がある場合は、再度、提出をお願いします。
H30-038	包括評価申告管理		包括評価申告管理	業務なし	包括評価を取得した場合に、変更や更新、評価加算状況が確認出来るようなシステムの構築。申告官署や通関業者も海上航空でいくつかの業者・事業所に跨り、いつ加算申告したのか、まだ加算申告していないのか分かるようなシステムがあれば、荷主に限らず通関代理店においても管理が容易である。	評価申告の加算漏れや二重加算の回避ができ、且つ期限等の管理が出来る。	新規業務を新設することとなり、費用対効果の観点から実施しません。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-039	原本の数量裏落とし		IDC業務、MSX業務、後に数量の裏落とし確認印の押捺で原本を税関へ提出する業務	輸出した貨物を分割して輸入する場合の通関数量の裏落とし（再輸入免税のE/D、暫定八条の付属書等）については、その裏落としを記載した書類をPDFファイル等で提出することで審査終了まで実施して頂いていますが、輸入許可後にその原本を申告先部門へ提出し税関の確認印の押なつを頂いている。	関税割当証明書（TOA、TOB、TOC、TOE）のような業務を設けて頂きたい。	・裏落とし確認印の押捺のために税関へ書類持ち込むことが削減される。 ・自由化申告が利用しやすくなる。	新規業務を新設することとなり、費用対効果の観点から実施は困難です。
H30-040	輸入通関		現行、対象業務なし。	現行、対象業務なし。	通関士ごとの誤謬や非違件数のNACCSによる取出し。	社内検討資料として誤謬対策に役立てる。	希望されている誤謬や非違件数がNACCSで全て網羅可能なかの等の課題があり、また、費用対効果の問題もあるため実施しません。
H30-041	輸出入申告		入力控、申告控、許可証の文字サイズ変更	6次ナックスの入力控、申告控、許可証とも文字が小さくなっているため、チェックの際に文字が見にくい。	6次ナックスの入力控、申告控、許可証の文字サイズを5次ナックス並みのサイズに拡大していただきたい。	見間違いによる誤謬の防止。	ページ内に収める必要があるため、フォントサイズを大きくすることは出来ません。
H30-042		IIE01	法人番号情報照会	法人番号照会時、輸出入者名と住所が表示される。	輸出入者名、住所とともに電話番号の照会も行いたいため表示していただきたい。		IIE01業務において出力される照会結果については、国税庁の法人番号検索サイトに登録されたデータを基としていますが、このデータには、電話番号が含まれておりません。したがって、本業務において電話番号を照会結果として出力することができないため、要望実現は困難です。
H30-043	修正申告事項登録	AMA	汎用申請で輸入許可となったドキュメント貨物に係るAMA業務の対応	汎用申請にて輸入許可となった書類貨物について、事後に有税品貨物であることが判明した場合、汎用受理番号ではAMA修正申告がNACCSで行えなくなった。 5次NACCSで行っていたマニュアル申告では、申告番号体系に沿った申告番号を採番していたため、AMA、AMC業務での修正申告が可能であった。	AMA業務において汎用申請受理番号の入力を可能とし、NACCSで修正申告ができるようにしたい。		費用対効果が見込めないため、実施しません。
H30-049	輸入申告(業務コードIDA、AID)における包括評価番号欄	IDA	包括評価番号入力欄における複数評価番号を入力した際の評価補正の自動計算機能	5次NACCSでは包括評価番号は1つしか入力できないので税関記事欄に2つ目の包括評価番号を記載しています。	6次NACCSでは航空貨物の輸入申告(業務コードIDA、AID)に於いて包括評価番号が複数入力出来ませんが、「システムで複数の計算ができない為、評価区分コード5を選んで補正金額を入力する必要がある」とヘルプデスクからの回答でしたが、一括加算で(評価区分コードはZ)申告を行った後の2回目以降の申告では補正する金額がありません(評価区分コードはブランク)。この場合の評価区分コードを新たに設けて頂きたいと思えます。	複数対応できれば大きいと思います。	複数の包括評価の対応は、システム上不可能なため(課税価格の算出が出来ない)実施しません(どの欄に適用するのかシステム上判別できないため。)
H30-051	輸入申告	IDA	複数B/Lによる申告(航空)	複数B/Lを1申告としての申告が不可能	複数B/Lでの申告を可能とする	マニュアル申告の削減により電子化が推進されるとともに自由化申告の利用が可能となる。	第6次仕様検討時に検討しましたが、頻度の問題、レイアウトの問題等もあり対応しない結論としています。また、項目の追加は他の利用者様への影響も大きいため困難です。
H30-053	MICからIDCへの申告訂正及びMECからEDAへの申告訂正	MIC MEC	MICで申告後、IDA及びIDCへ変更する機能とMECで申告後のEDA、EDCへ変更する機能を設けてほしい。	現在マニフェスト申告後、マニフェスト申告適用除外品であることが判明した場合、税関の了解の得てマニフェスト申告の撤回を行い、輸入の場合は、IDA、IDCを輸出の場合はEDA、EDCを行っているが、輸入において加算税が発生する案件については、当初のMICの申告番号を引継いだマニュアルでの申告(紙での申告)を行うよう税関から指示されている。 マニュアル申告だとNACCS口座(リアルタイム口座)の使用が出来ないなど、納付方法に制限もあり対応に時間がかかる。また、NACCS外となってしまうので、履歴管理が難しい。	NACCSで一元処理を可能とするため、MICで申告後にIDA及びIDCへ変更する機能とMECで申告後のEDA、EDCへ変更する機能を設けてほしい。		システム上対応困難です(申告番号がマニフェスト申告と通常申告では番号体系が異なるため)。
H30-058	WebNACCSのログイン		セッションタイムアウト	現在netNACCSでは外航船しか申請出来ない、よってWebNACCSを使って内航船、外航船の代理店業務の申請を諸官庁へ提出している。しかし、ログインしてから1時間したら再ログインをしなければ続けて利用することが出来ない。	①netNACCSで外航船だけでなく、内航船も申請できるように追加してもらいたい。 ②WebNACCSの稼働時間が1時間と非常に短い。再ログインは非常に手間が掛かり、使い勝手が良くない。稼働時間の延長(ずっとつけっぱなしが多い為、12時間ぐらい)もしくは、更新すればまた1時間続けて使えるように改善を強く要望します。		①パッケージソフトに新たな業務を構築することは費用対効果が見込めないことから対応は見送らせていただきます。 ②セキュリティ対策及び無用なセッションを減らす目的があることから対応は見送らせていただきます。 画面遷移の伴う動作や一時保存等を行った際にセッションタイムアウト時間はリセットされる仕様になっています。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-059		VTX01 VTX11	VTX01、VTX11 船舶運航情報のWebNACCSとパッケージの連動	弊社がセカンドポートの外航船の船舶運航情報をパッケージソフトからVTX11を使い呼出したところ、呼出しせずに、前港代理店に確認したところ、WebNACCSを利用したとのことでした。WebNACCS→パッケージソフトへの連動を一度確認して頂けないか。		パッケージソフトでの船舶運航情報入力業務がスムーズになる。	WebNACCSでも「船舶基本情報等事前登録(WBX)」で登録した「運航情報を使用する」申請を行っていただければ、次港の代理店は「船舶運航情報呼出し(VTX11)」で呼出しが可能です。WebNACCSとパッケージソフトは相互に情報連携していますが、運航情報を使用する申請と使用しない申請では情報連携していません。
H30-060	パッケージソフトによるTCP業務	TPC	TPCとん税納付申告の金額の記載	TPCとん税納付申告にて適用税率のプルダウンリストに1トン当たりの金額を記載したらどうか。	A：入港ごとに納付(36円) B：一時納付(108円)	とん税の誤納付防止につながる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。既に税額確認ダイヤログ画面が表示される為、当該画面で金額に誤りがないか確認してください。
H30-061	WebNACCSによるCSVファイル作成ツール		CSVファイル作成ツール	保存時にファイル名が自動で付される。	自動で付されるファイル名は例えば乗組員情報ではcrew-20170901000001の用に数字の羅列になっている。複数人でファイルをアップロードした場合にファイル選択時にどれが該当ファイルか判らないため一旦保存した後にファイル名の数字部分を船名に変更してからアップロードしている。保存の際に「名前を付けて保存」と同様にファイル名を変更出来るようにして欲しい。	① CSV出力ボタンを押す。→②自動的にファイル名が付けられて指定フォルダーに保存。→③フォルダーを開く。→④ファイル名を変更。この③、④が省略可能 = 手間が減少する。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-062	パッケージソフトによるVPX業務	VPX	備考欄の入力内容	備考欄に身分証明の有効期限を記載。	第5次NACCSでは、身分証明の有効期限を記載するところが無い為、便宜的に乗組員情報、乗客情報の備考欄に記載し、転記している。第6次NACCSより有効期限の欄が設けられたことにより備考欄が空くようになった。この備考欄に記載した内容を乗員上陸許可証の欄外余白に印刷頂きたい。	客船のように乗組員が多数乗船している場合に乗員上陸許可証を配布、回収するのにかなりの時間を要する。欄外に仕分けしやすいように本船内の部署コード等を明記することで配布、回収に要する時間が短縮できるため。	ご要望については、法務省入国管理局様にお伝えします。
H30-063	WebNACCSのログイン操作性		ワンクリックでトップページに移動	確認業務等で深く潜ってしまった際にトップ画面に戻る際に何度も「戻る」ボタンを押さなければならぬ。	一般的にホームページを作成する場合、一番上のロゴなどをクリックするとどこからでもトップ画面にジャンプするように作られている。WebNACCSでも同様のことが出来るようにして欲しい。	「戻る」をクリックするたびに画面を読み込むが、申請が集中する時間などに画面読み込み時間に時間がかかることが予想され、トップページに戻るだけでも結構時間が掛かりストレスを感じる。申請の締め切り時間が迫っているときに読み込み時間に時間がかると間に合わない可能性があるが、これにより全体の通信量が減り通信速度も速くなると思われる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-064	WebNACCSにおけるWVS業務及びWSC業務の画面レイアウト	WVS WSC	トップ画面のレイアウト変更(WVS、WSC)	WebNACCSトップ画面の「書類状態確認(WVS)」、「一時保存情報呼び出し(WSC)」の位置が画面の下方にあるためたどり着くまでマウスクリックしなければならず面倒。	「書類状態確認(WVS)」、「一時保存情報呼び出し(WSC)」はよく使うため、トップ画面上部の「帳票確認(WNC)」右横の空きスペースに移動若しくはリンクを貼って欲しい。	両業務とも使用頻度が高いため、クリックするためにマウスクリックしなければならぬのは手間が掛かりストレスを感じる。トップページの丁度良いところに空きスペースがあるため有効利用したい。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-065	WebNACCSにおけるWUD業務の画面レイアウト	WUD	トップ画面のレイアウト変更(WUD他)	WebNACCSトップ画面の「CSVアップロード」「ツールダウンロード」が上、「乗組員・乗客・危険物(WUD)」が下に配置されている。	一般的に使用頻度の高い方が上側に配置され、利用者もそのようなレイアウトに慣れているため使用頻度の関係から上下逆にして欲しい。	一般的に使用頻度の高い方が上に配置されていることに慣れているため、押し間違えることが有る。「ツールダウンロード」は一度ダウンロードするとほぼ使わないが「乗組員・乗客・危険物(WUD)」はかなりの頻度で利用するので押し間違いが減る。=サーバーとの通信が減り、通信速度が上がる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-066	WebNACCSのログイン		ログイン画面	WebNACCSにログインするたびにユーザーIDとパスワードを入力する必要がある。	PWは現行仕様のまま都度入力することで構わないが、パッケージソフトと同様にIDは一度入力したら自動で表示されるようにして欲しい。ユーザーIDが自動で表示されるように設定するかしないかを選択できるように出来ればBetter。更に現行パッケージソフトと同様に複数IDを記憶しておくきカーソルを合わせると選択できるようになればBest。又は最初の一文字を入力すると過去に入力したものが表示されて選択する方法も可。	手入力する箇所は少しでも少ない方が良い。現行のパッケージソフトでも利用者IDは一旦入力すれば以降の入力は不要なため、これに慣れている方にとっては都度IDを入力するのは煩わしく感じる。現行同様に利用者IDは一度入力したIDデータを保持して頂きたい。	WebNACCS導入の前提に「現行NACCSと同等(NetNACCS)において採用しているデジタル証明書相当のセキュリティレベル」以上のセキュリティの確保を必須とする必要がある。」と整理しております。その為、対応は見送らせていただきます。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-067	WebNACCSのログイン	-	ログイン認証	以前より、代理店協会が強く要望していたWebNACCSの使用が第6次NACCSにて可能となった。しかし、勤務先にて使用するパソコンはデジタル証明書を取得しており、WEBNACCSへの接続が可能であるが、デジタル証明書を取得していない自宅等のパソコンではWEBNACCSを使用することが出来ない。	セキュリティ強化の観点より、デジタル証明書の認証を不可したとのことだが、WEBNACCSに接続する際には使用者ID及びPASSWORDを入力することでセキュリティは十分確保されていると思っている。それ以上に自宅、或は出先等で使用出来るように利便性を上げて欲しい。	利便性の向上	第6次NACCSの検討において、WebNACCS導入の前提に「現行NACCSと同等（netNACCSにおいて採用しているデジタル証明書相当のセキュリティレベル）以上のセキュリティの確保を必須とする必要がある。」と整理しております。その上で、ネットワーク提供予定ベンダーと検討を進めてきた結果、現時点ではデジタル証明書の採用が最善（経済性・機能性において）と考えられ、目下のところ、これに代わる適当な方法はないとの結論に至りました。従いまして、WebNACCSでもデジタル証明書の取得は必須であり、対応は見送らせていただきます。
H30-068	-	WPT	入港前統一申請	-	税関・入国管理局の受理or送信成功回答を得たい 保証契約情報 船舶保安情報の送信完了の自動返答を得たい	-	受信確認通知等の確認作業が煩わしいという要望を受け改修したため、対応は見送らせていただきます。 照会業務のステータスが「送信済」となっている場合は正常に送信できていることとなりますのでご確認ください。
H30-069	WebNACCSにおける業務機能の改善	-	錨地指定一覧	-	停泊場所の空き状況はNACCSログインなしで確認できるようにしてほしい。	-	第6次NACCSではログインが前提の仕組みとしたため、対応は見送らせていただきます。
H30-070	パッケージソフトにおけるIVS業務機能の改善	IVS	届出指定一覧の表示	・申請した書類の名称表示がない ・申請先の表示が官署コードのみ	・照会種別（B1、C1、D1等）だけではどの種類の申請をしたか把握しづらいので、以前のように書類名称を表示していただきたい。 ・申請先の表示も官署コードのみではなく、以前のように「〇〇市（〇〇港湾管理者）」と表示していただきたい。	-	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-072	WebNACCSにおけるWPT業務機能の改善	WPT	-	WPTで船名が入力出来ないで一時保存情報呼出し（WSC）にてコールサインは表示されるが船名が表示されない。	内航船のWPT業務同様、外航WPT業務においてもコールサインにて船舶呼出しを行い船舶名称が表示される様にして欲しい。	-	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-073	WebNACCSにおけるWUD業務機能の改善	WUD	-	アップロードファイルや一時保存情報が削除できない	不要となったファイルや一時保存情報を任意で削除できるようにしてほしい。	-	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-076	-	VTX01	-	A業務、乗組員・旅客・船用品を編集する際 船舶運航情報登録（VTX01）航海番号（1）、（2）を入力しても航海番号（1）でしか呼び出せない、または編集できない。	船社で使用している航海番号は内地の途中で切り替わることがよくあり、船舶運航情報登録（VTX01）航海番号（1）、（2）に入力した場合、乗組員情報等どちらの航海番号（2）でも呼び出せるようにしてほしい。乗組員・旅客・船用品を編集する際に航海番号の片方のみ編集、（1）（2）両方編集する機能を追加すれば可能だと思う。	-	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。一つの船舶に対して複数の運航情報を登録したい要望を受け、キー項目を「船舶コード+航海番号（1）」としております。
H30-078	WebNACCSにおける出力帳票	-	WebNACCSの帳票確認（WNC）	帳票検索結果が帳票名称でどの本船の申請分が不明。申請が多い時、1件1件開封しなければならぬため。	CALL SIGNや船名等で判別しやすくないか？ もしくは、検索条件でCALL SIGNや船名での検索ができないか？	各官庁からの回答情報が本船単位で確認することが容易となる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-079	WebNACCSにおけるWPT業務機能の改善	WPT	内航 入港前統一申請（WPT）	WebNACCSになり、パッケージソフトでできていた、担当船が5～6隻ある場合にそれぞれの船でファイルを開き必要事項を入力して準備できていたものが、1船毎に1から入力していかないと申請ができない。	数隻の船の基本情報等を入力して準備しておき、時間が決まったら時間だけを入力していくことで申請に掛かる時間を短く出来るようにしていただきたい。	週末等20隻～30隻の申請に掛かる時間を短縮できる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。申請等呼出しや外部ファイルの機能をご活用ください。
H30-081	-	-	受信確認	検査所受信確認について、IBNACCSでは検査所に無線検査、入港届を送信すると受信確認電文の返信があった。新NACCSではなくなっている。	IBNACCSと同様に受信確認電文を返信していただきたい。	送信ミスがなくなる。	受信確認通知等の確認作業が煩わしいという要望を受け改修したため、対応は見送らせていただきます。 照会業務のステータスが「送信済」となっている場合は正常に送信できていることとなりますのでご確認ください。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-082		VPX VPX11 VTX02 VTX12		本船寄港において船員交代（乗下船）がある場合、下船者についてはVPX内の乗員上陸許可申請のタブに入力し申請している。このVPX内の乗員上陸許可申請はそれ以前にVTXにおいて登録されている船員情報が対象となり、入管へ下船者のみの乗換申請をする際には当該船員のみを対象としたVTXを入力し（下船フライトが異なる際には更に分けて）、再度出港届の際には出港時の全船員を登録するという大変な手間がかかり非常に困惑している。	VPXの乗員上陸許可申請のみで入管への下船者の申請ができるよう変更を希望する。		平成29年10月26日・11月7日に暫定対処をご提案し、その後、平成30年度プログラム変更要望として改修を検討しましたが、対処案ではデメリットもあるとのこと意見を踏まえ対応は見送らせていただきます。 なお、CRW業務は第12回WG（2014.12.11）にて業務の廃止を決定しており、費用も大きいため、再構築は困難です。 <対処案> 備考欄に「*」が入力された場合は入管宛ての情報として判定し、入管宛てには当該情報のみを送信する。 <懸念点> 「*」が入った運航情報を次港でも使用するため、次港での運用に支障がでしまう可能性がある。また、備考欄を別の用途に使用している利用者に対しては、別の不便が生じる可能性が考えられる。
H30-083		VTX11 VTX12 VTX13 VTX14		必須項目が船舶コードと航海番号になっておりますが、例えば前航海で使用している運航情報を利用する場合に前港で使用されている航海番号が不明な場合は、前港の代理店に確認するなどしなければ既に登録されている運航情報を利用できず、新規ですべてのデータを入力しなければならない。	必須項目を船舶コードのみにしていただき船舶コードで呼び出すと登録されている運航情報がすべて表示されるようにしてほしい。	登録されている運航情報を再利用できるので新規でデータを入力する必要がない。	第6次NACCSでは、一つの船舶に対して複数の運航情報を登録したい要望を受け、キー項目を「船舶コード+航海番号」としております。照会業務の船舶運航情報一覧で航海番号をご確認ください。
H30-084		VPX	受信確認	税関に対しVPXを行った際に、税関より届いた旨の回答が無いので申請後に税関へ電話で確認をしなければならない。	VPXを行った際に税関より回答が来るようにしてほしい。	税関に電話で届いているか確認をする必要がなくなる。	受信確認通知等の確認作業が煩わしいという要望を踏まえて第6次NACCSで改修したため、対応は見送らせていただきます。照会業務のステータスが「送信済」となっている場合は正常に送信できていることとなりますのでご確認ください。
H30-085		VTX11 VPX		6次NACCSではVTX11で港の寄港順序が変更になった際、本邦寄港順序を変更するだけで便利になったが、寄港順序を変更後に税関に対してVPXの訂正を行うと「算出された本邦寄港順序が訂正前の入港前統一申請の本邦寄港順序と異なる」というエラーがでて訂正ができない。	VPXで寄港順序が変更になった場合に訂正ができるようにしてほしい。	変更前の運航情報を取り消し、新規で再度申請する必要がなくなる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-086	WebNACCSのサブメニュー		サブメニュー	複数の申請先に同時に申請する際に、申請書類のリンクをクリックして必要事項を入力し、一時保存をする作業を必要申請書類ごとに繰り返し行っている。チェックボックスにチェックを付けた申請に対してエラーのチェックを確認し、同時申請を行っている。	一つの画面で同時に複数の申請先へ申請する為の入力が行えるようにしてほしい。	・繰り返し行う作業の効率化を図ることができ、未入力及び誤入力を防ぐことができる。 ・エラーチェックについても一目でどの箇所に不備や間違いがあるか判断ができる。	Web化に伴い1画面で複数申請の入力を行うことはシステム上負荷が大きいため、対応を見送らせていただきます。
H30-087	WebNACCSのサブメニュー		サブメニュー：エラーチェック	複数の申請先に同時に申請した際のエラーチェック結果は別画面で展開される為、その画面を確認しながら訂正等を行っている。	複数の申請先に同時に申請をした際のエラーチェックで不備があった場合の指摘の仕方について、入力画面のどの箇所かわかるように色等で表示してほしい。	・繰り返し行う作業の効率化を図ることができ、未入力及び誤入力を防ぐことができる。 ・エラーチェックについても一目でどの箇所に不備や間違いがあるか判断ができる。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-088				③内航貨物運送到着確認（DCA） ④汎用申請（HYS） ⑤船陸交通許可申請（APA） →パッケージソフトのみの対応になっている。	③-⑤WEBNACCSでも対応可能にして欲しい。		WebNACCSに新たな業務を構築することは費用対効果が見込めないことから対応は見送らせていただきます。
H30-089	WebNACCSにおける添付ファイル機能			外航船の入港前統一申請に関して、CREWLISTを1名1名打ち込みになっており、現状これが最大の難関になっている。	上記内容につきCREWLISTはPDFファイル添付でOKとする。	申請手順が簡単で、大幅な時間短縮ができる。外航のNACCSを使いたくない最大の理由であることなので是非そのようにしてほしい。	関係省庁様にご要望はお伝えしますが、現状では関係省庁様側での対応が出来ないので、対応は見送らせていただきます。
H30-090	WebNACCSにおけるWPT業務機能の改善	WPT	一時保存	WebNACCSのWPT業務において、申請を入力後に保存ボタンを押した場合は保存番号が付与されるが、画面はその申請画面に留まる。	保存番号を付与した後はそのままサブメニュー画面へ自動で移動し欲しい。	わざわざ戻るボタンでブラウザ移動する必要があり、特にネット環境が繋がりにくい場合には時間が多くかかってしまう。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。一時保存後に入力作業を継続する利用者には悪影響があるためです。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-091				税関へ本船が入港する1日前に通報しなければならない「揚荷情報」をNACCS上にて申請出来ないため、この申請は書類提出しなければならない。	申請出来る業務を新設して欲しい。	申請がNACCSと書類で混在すると管理しにくいので出来るならNACCSで統一したい。	WebNACCSに新たな業務を構築することは費用対効果が見込めないことから対応は見送らせていただきます。
H30-092		WPC TPC		とん税納付申請は申請控えのみNACCSで確認できる。	NACCSセンターの受領証（納付完了済証）のようなものを新設して欲しい。	船会社から未納付の嫌疑がかかった場合に納付の証拠として保管したい。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。リアルタイム口座であればリアルタイム口座支払完了通知情報が出力されます。
H30-093	WebNACCSの機能改善		一時保存	申請を入力し一時保存した後にその画面のまま別の本船の申請内容を入力し保存すると最初の申請に上書きされてしまう。このため新たな申請を入力、一時保存するためには一タトップ画面に戻らなければならない。	一時保存した後に開いている画面に別の本船の内容を入力後に最初の本船のデータに上書きせず別のデータとして一時保存できるようなボタンを追加して欲しい。 (港湾EDIは登録方法の違いからデフォルトでは上書きでは無く別データとして登録されるようになっておりフル活用していました)	例えば同日に同じ岸壁で数隻付け替えて荷役する場合の係留施設使用許可申請は最初の本船の登録内容に本船名と日時の変更程度だけで済むためかなりの省力化になる。現行の仕様通り同じ本船のデータを上書きすることもあるため、保存する際の上書き保存するか、新規保存するかを選択できるようにすれば入力にかなりの省力化を図ることが可能。	費用対効果が見込めないため対応は見送らせていただきます。
H30-094	WebNACCSの機能改善			WEB NACCSで停泊場所指定願、係留施設使用届、入出港届を申請し、受理を頂いた物を印刷した時印刷したかどうか分からない。	WEB NACCSで申請書を印刷したら文字の色が変わったり印刷済だと分かるようなマークが表示出来たら使いやすい。		印刷したか否かの判別がシステム上でできないため対応は見送らせていただきます。
H30-098	輸出貨物BL作成業務	全てのACL業務	マーク欄、品名欄の改行を有効にする	現在、お客様がマーク欄、品名欄で改行を行っても、EDIFACTで受信した際はその改行が自社システムに反映されない状況です。その為、お客様にスペースを入力してもらうか、自社システム側で手直しが必要となっております。	上記改行がEDIFACT上でも反映される様、システムの変更をお願い致します。		NACCSのEDI仕様書上、項目内に改行を入れることは不可となっているため、変更はできません。
H30-099	輸出貨物BL作成業務	ACL01			1. Cargo Description欄の拡大 (Background: Attachment sheetで情報が別途提出されるケースが30%に及び日本のBL作成自動化を妨げる大きな原因になっている。MSLとしては今後ある程度の情報をCargo descriptionに記載する中古車などには今後ウェブサイトもしくはDirect EDIを推奨せざるを得ない状況になっている) 2. Freight term情報の詳細化 (Background: 海外ではFreight Prepaid/Collectのみならず、SurchargeなどのTerm・支払者を記載してそれをEDIとして取り組むのが主流になっている。) 3. @マークの受信 (Background: 海外ではEmailが主体であり、Arrival noticeの受信先にメールアドレスを記載する顧客が数多く存在する。さらに弊社ではメールアドレスがないと社内顧客コードの作成が行えず、毎回BL作成が停止している。)		1. 2. の改修に関しては、自社システムを含む各社への影響が大きいため変更しません（ACL01の項目は各社総意として決定した共通項目であり、各社固有の必要項目を盛り込むことはできません）。 3. は「荷主連絡先メールアドレス」にて@を含めてメールアドレスを入力する事が可能となっています。注：3. については、「@」ではなく「_」（アンダーバー）の提示誤りとのことであったが、「_」についてはEDIFACT利用の問題等、影響範囲が大きく実施は困難です。
H30-100	危険物明細情報	DDR DDC DCR		現在のDLRには含まれていませんが、ブックイング時点で次の情報を受け取っています。 ・Limited Quantity(Yes/No) ・Contact Person	次の項目の追加を希望します。 ・コンテナタイプ an/1 ・Limited Quantity an/1 緊急連絡担当者名 an/50	いずれの項目も存在しない場合は、旧来の情報伝達手段でのやり取りがなくなる可能性が高いです。	危険物明細情報については、新規提供業務であり、当面は今後の利用度合い等も見つつ、利用者からの要望が大きい場合は改めて検討します。現時点では費用対効果の点から実施しません。
H30-102		BOC	搬出確認登録	BOCの搬出日時がBICの搬入日時よりも以前の日付になっていても送信できる。	BOCの搬出日時がBICの搬入日時よりも以前の日付として入力された場合は送信できない仕様にして欲しい。	保税検査の際に指摘されることがなくなる。そもそも搬入日前に搬出することはありえない。しかし、人が行うことでミス入力することもあり、その度に税関当局へマニュアル管理のための変更をすることはこのご時世則われないと存じます。税関当局にお手間をおかけすることも減ると存じます。	搬出及び搬入の日付チェックのバターンは複数あり、それぞれ利便性等を考慮して採用されていますが、本件は更改WGにおいて検討した結果、エラーとしないこととしておりますので、変更はしません。
H30-103			許可・承認貨物（輸出情報）	本船、輸出者、乙仲等々の情報の記載がある。	項目としてブックイングNO.を記載してほしい。	混載貨物を扱うにあたり、ブックイングNO.の記載があれば、許可書を見ただけで、どのコンソリ業者扱いの貨物が明確にできる。倉替元の倉庫でBOC（搬出確認登録）の処理がされないで、10G（貨物情報照会）を閲覧できない故、本船が被るコンソリ業者などは確認や問い合わせが困難である。	許可書等への項目追加は、自社システムも含めて影響が大きいため実施しません。記事欄を活用する事で対応は可能と思われるので、ご検討ください。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果	
H30-115	保税運送貨物の搬入業務	BIA ICG	保税運送で複数コンテナの搬出日が異なった際、開始日時と終了日時が更新されることの見直し	OLC（個別運送受付情報）にてBIA搬入確認登録（保税運送貨物）を行う際、運送期間の確認を行っているが、表示上の運送期間が「発送の日から7日間」となっているためICG貨物情報照会（TTL全体情報）にて最初に搬出をした日を確認し、同じくICG（PRM保税運送申告等税関手続情報）で開始日時と終了日時を確認をしている。コンテナが複数あり、それぞれ別々の日に搬出されている場合、搬出された日毎にICG（PRM保税運送申告等税関手続情報）の開始日時と終了日時が更新されてしまい、運送開始の日が明確ではない。	現行のNACCSでは運送期間が超過してしまっているものでも、BIA搬入確認登録が行ってしまうので、運送期間が超過する搬入処理が行えないようになるのが希望（以前のNACCSだと運送期間が超過したものはエラーで弾くようになっていた）。また運送期間の確認で行っているICG（PRM保税運送申告等税関手続情報）の開始日時と終了日時を最初の日で固定にしてほしい（発送の日から〇日間の「発送の日」が明確にならないため）	BIA搬入確認登録（保税運送貨物）の処理がエラーになれば、運送期間の超過しての搬入がなくなる。またICG（PRM保税運送申告等税関手続情報）の開始日時と終了日時が最初のコンテナの搬出された日で固定されれば、運送期間が明確になり期間の超過を未然に防ぐことが出来る。	BIA業務をエラーとする場合は、後続業務への影響が大きいため、実施しません。また、ICG業務に関する要望は、費用対効果の観点から困難です。	
H30-116		CY0		PKI後にCHJ→CKOでX線検査のために搬出する際にCY0（K）業務をNACCSで送信するとエラーとなる。 エラーコード: E0054-OKD-0000	CHJでB/L仕分けを行った後にCY0業務が送信可能としていただきたい。	管理台帳に反映される。 長期在庫にならない。	輸入申告中に仕分けを行った際には、申告変更にてB/L番号を仕分け後B/L番号に変更する事で対応が可能です。	
H30-117	海上貨物	CMF03	-	他港揚げT/Sに就き、揚げ港でCCL完了後に当港でCMF03を行っているが、現状データの保存期間がCCLから起算して2日と非常に短く、その間にデータが消えてしまったり土日出勤を余儀なくされるケースがある。 輸出で当港積み他港T/S貨物がありNACCSで対応したいが、現在輸出データはCCL完了後でないCMF03できなく、夜間週末だとCCL対応不可の船社がありマニュアル対応や時間外業務を余儀なくされるケースがある。	・CCL後の輸入データの保存期間を2日+α延長頂きたい。 ・輸出のT/S処理（仮陸揚げCMF03）をCCLではなくCLR後にできるようにして頂きたい。	夜間、土日等、平日の時間外での業務をなくせる。	輸入については前港のDMF業務後から実施可能となっており、前港のCCL業務を待たずに実施可能です。 輸出については既存におけるコンテナ再利用の考え方も含めてコンテナ関連の根本的な見直しが必要を為実施は困難です。	
H30-118	ACL情報登録	ACL	貨物の記号・番号等のアタッチシートを電子ファイル化して当該業務の添付ファイル化したい。			詳細仕様検討の結果実施しない事とした案件一覧の復活。プログラム変更要望が引続き出ているので要望することとした。	ご要望に関しては、更改WGにおける詳細仕様検討において実施しないとして決定しており、実施しません。仮に実施する場合は、受信側の回線速度の観点からの検討も必要となります。	
H30-119	ACL情報登録	ACL	禁則文字について	電文上にメールアドレスを記載する場合に使用する「J」（アンダースコア）、危険品のフラッシュポイント等温度表記に使用する「°」が禁則文字となっており使用できない。荷主によっては正確な記載を要求される。	技術的に難しいと思われませんが「J」「°」を利用可能として頂きたい。	二重入力負荷の軽減	EDI/FACT利用の問題等、影響範囲が大きく実施は困難です。	
H30-120	ICN（コンテナ情報照会）	ICN		ICN（コンテナ情報照会）照会内容に貨物管理番号が入っていない。	ICN（コンテナ情報照会）照会内容に貨物管理番号を追加して頂きたい。	端末入力、船会社手続きの円滑化。海貨として利用価値が認められる。	該当コンテナ貨物について業務を行った業者の場合は出力されます。それ以外の利用者については、セキュリティの観点から出力不可とする仕様としています。	
H30-122	新規業務		一括搬出取消確認登録（仮称）	混載業者(NVOCC)が予定されたコンテナ詰場所が変更となった場合は、一括搬出登録を行っている場合のみ一括搬出取消は可能であるが、一括搬出されていない場合は輸出管理番号ごとに取消しを行っている。	個別搬出登録した場合でも、仮称「一括搬出取消確認登録」業務を追加して頂きたい。		改修規模が大きく、費用対効果の観点から実施しません。	
H30-123	貨物情報照会	ICG TTL		貨物管理番号（輸出）で照会すると「バンニング場所」の表示がない。	貨物情報照会（全体情報）に「バンニング場所」の表示をする。	輸出許可通知書の確認をせずに照会が可能となり省力化になる。	輸出許可通知内容については、申告を行った通関業者のみを照会可能としています。なお、JEX業務で確認できるため、当該業務をご利用ください。	
H30-124	貨物情報照会	ICG TTL		貨物管理番号（輸出）で照会すると「許可承認番号」の表示がない。	貨物情報照会（全体情報）に「許可承認番号」の表示をする。		コンテナ詰場所が変更となった場合、「ICG/TTL」に貨物搬出状況確認を行い搬出されている場合は、「BOC」（搬出確認登録）搬出取消を行うため「ICG/TRN」で「許可承認番号」を確認して登録を行うことになるので全体情報にて確認が一度で行える。	既にICG/TRNで確認できるため、費用対効果の観点から困難です。
H30-125	ACL情報登録	ACL		コンテナ番号入力欄（繰返部に記事欄がないため、荷姿及び内個数を「共通部2」の記事欄にコンテナ番号を明記し記載している。また、特殊コンテナの場合はオーバーハイ・オーバーワイドを同様に記事欄に記載している。	コンテナ番号入力欄に内個数・オーバーハイ・オーバーワイドの入力欄を設ける。	コンテナ番号の入力省力化。	入力項目の追加は自社システムへの影響等も発生するため困難です。	

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-126	ACL情報登録	ACL		品名ごとに個数・重量・容積を入力し合計欄に入力している。	合計欄に品名ごとの個数・重量・容積を自動計算させる。	誤入力防止及び省力化。	品名ごとに荷姿や重量コードが異なる場合は自動計算できない等、単純合算では対応できないケースがあるため、困難です。
H30-127	貨物在庫状況総会	IWS		貨物識別：B貨物 輸出入識別：22輸出(積戻しを含む)で照会した場合「出港予定日」が表示されない。	貨物在庫状況照会に「出港予定日」を表示させる。	貨物管理番号を取得されている一覧が表示されるが、「出港予定日」が表示されることにより目安となり確認の手間が省ける。	出力項目の追加は影響が大きいため困難です。
H30-128	簡易貨物情報	SCR	「搬入年月日」の項目において、未来日(予定日)でも対応できるようにしてほしい。	未来日(予定日)で入力するとエラーではじかれる。			SCR業務を行った時点でシステム上は搬入された事となるため、未来日入力を可能とすることは問題があるため実施しません。
H30-131	輸入通関	AMA	AMA(修正申告事項登録)海上、AMC(修正申告)海上での延滞税表記について	リアルタイム口座振替方式で納付する修正申告において、AMA(修正申告事項登録)で出力する「修正申告入力控」では、延滞税額が出力されているが、AMC(修正申告)により出力される「開税修正申告控」では延滞税額が出力されないこととなっている。	リアルタイム口座振替方式で納付する修正申告において、延滞税額は「リアルタイム口座振替完了通知情報」CAF6150もしくは「リアルタイム口座支払完了通知情報」CAF6141で確認することとなっているが、AMC(修正申告)での「開税修正申告控」の出力帳票においてリアルタイム口座で即納付した場合においては、延滞税額の印字を要望する。		リアルタイム口座利用では修正申告控情報を出力後、外部の金融機関に引き落とし依頼を行い、残高があれば引き落とし処理が行われ、残高が無ければ口座不足情報を返す仕組みとなっています。従って、延滞税額は引き落とし時に確定しますので、仕組み上システムでは対応出来ません。延滞税額は、リアルタイム口座完了通知情報でご確認ください。
H30-133	輸入通関	BIB - ROR	第6次の更改では、航空貨物を外貨のまま海上貨物として積戻す場合、システム外搬入(BIB)の後の積戻貨物情報登録(ROR)が利用出来ない扱いと聞いている。		航空貨物が本邦到着後において、保税運送にて海上保税蔵置場等に搬入の後、船便にて海外へ積戻す場合に、航空・海上間の貨物情報変更(変換)機能をシステム内に付加して頂きたい。		更改WGにおいて件数が僅少であるとして対応を行っていません(費用対効果の問題)。航空貨物を外貨のまま海上貨物として積戻す場合は、航空貨物情報を税関に依頼のうえ削除した後、ECR(R:積戻貨物)-BICで対応が可能となります。
H30-134	輸出貨物情報登録	ECR	ECR:輸出貨物情報登録	現行、EDC業務(輸出申告)で「搬入時申告の登録」をかけた後でも、搬入が入っていない場合にはECRを訂正することができる。また、BIC業務(搬入確認登録)情報とEDC情報は荷姿しか照らしあわされない。そのため、EDC後に重量等訂正が生じた場合に、ECR情報を訂正してBICを行ってしまうとECR/BICと異なる重量等で、勝手にEDC(輸出申告)がかかってしまう。	(第1希望) EDC(輸出申告)を外さないとECRの訂正ができないようにする。 (第2希望) EDCとBIC情報を照らし合わせる際に、荷姿だけではなく重量もその対象にする。	連絡タイミングや連絡ミスによる非違・余計な訂正を防ぐことができる。(現行、ECRを入力する全員に対してECR訂正&EDC再申告→BIC搬入の順番で業務を行う必要があると周知し、人力で非違が起きないように努力しているが、システムエラー扱いしてもらえれば非常に助かります。)	どの利便性を優先するかという問題であり、ある程度の総意があれば見直す可能性はありますが、現状では現行仕様を継続といたします。
H30-135	輸入申告	IDA	複数B/Lによる申告(海上)	1申告で5B/Lまで申告可能	1申告で10B/Lまで申告可能とする。	マニュアル申告の削減により電子化が推進されるとともに自由化申告の利用が可能となる。	第6次仕様検討時に検討いたしましたが、レイアウト等の問題もあり対応しない結論としています。また、項目の追加は他の利用者様への影響も大きいため困難です。
H30-137	検査指定票(倉主等用) 検査指定票(運搬・倉主等用)	SAD4901 SAD4891	検査指定票(倉主等用) SAD4901 検査指定票(運搬・倉主等用) SAD4891	・ 現行は、税関、倉庫等が以下の内容(発送確認、日時、到着確認、日時等)を手書きして対査確認印を押している。(紙での運用になっている。) 税関職員または倉主(印) * 発送確認日時 * 到着確認日時 税関職員または検査場管理員(印) * 発送確認日時 * 到着確認日時 見本採取者(印)	平成29年10月8日から通関関係書類の原則PDF化による書類提出が行われている中、税関検査指定票(運搬用)に関しては、倉庫担当者の対査印、税関職員の対査印が必要なため、紙での運用が存在している。検査指定票(運搬用)の紙での運用を電子化による運用に変更することを検討して頂きたく要望いたします。 例えば、システム上で発送確認日時 到着確認日時 を入力し記載するようにすることで、対査印の押印の代わりに紙での運用がなくなるのではなかろうか。 運用に関係することですので関税局も含めてご検討頂ければと思います。	通関業者としては、対査印の押印のために倉庫、税関へ足を運ぶことが無くなるため、特に自由化申告での検査対応がスムーズに行えることが想定できます。	現状、税関側で対応しないとこのことなので、実施しません。 税関には要望があったことをお伝えします。
H30-138			①IDA業務にて原産地証明書の内取が可能にしたい。 ②MHA業務で監視部門に提出する見本持出しを可能にしたい。 ③MHA業務で監視部門に提出する見本持出しが行えない	①現行、原産地証明書の取り扱いは、輸入許可の日より3日以内の提出、また内取通関の場合には、原産地証明書に輸入許可日、輸入申告番号、輸入個数、数量を記載して税関の押印後返却を受ける ②NACCSでは監視部門に対するMHA業務(見本持出し)が行えない	①第6次NACCSでは、原産地証明書原本の提出が不要となるようですが、内取通関に於いても、NACCSで内取通関が可能にしたい。 ②見本持出し場所が外航船名でも行えるように変更を依頼します。外航船TANKからサンプルを採取するため	特定の貨物に限らず、NACCSでの原産地証明書の内取を可能とし事務効率が高い	①については、新規業務を新設することとなり、費用対効果の観点から実施は困難です。 ②については、どの部門に送信するか項目を追加する必要があり改修規模が大きく、費用対効果の観点から実施は困難です。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-139	輸入通関	IDC	「蔵入承認（以下「IS」）貨物のシステム管理選択をした保税蔵置場にてIS済み貨物の移入承認（以下「IM」）申請を行う場合に貨物情報を利用できる設定にして欲しい。」	<p>現行の仕様は次の①②③④</p> <p>①IDA（事項登録）時にIMを選択すると貨物情報DBが存在するにもかかわらず利用することができない。</p> <p>②IDC（申請）をしても貨物情報に申請を行った旨は登録されない。</p> <p>③IM承認後に貨物情報に承認の旨は登録されない。</p> <p>④保税蔵置場にも承認の旨の情報は配信されず、また、搬出確認登録（BOA）等、後続業務はできない。</p> <p>以上から、次の⑤⑥の不便点がある。</p> <p>⑤保税蔵置場においては、IS後の貨物をシステム管理しているにもかかわらず、承認証自体を受領しないと承認となっていることは確認はできず、マニュアルの保税管理となる。</p> <p>⑥税関保税部門は、滞留する情報について、保税蔵置場より連絡を受け、強制的に情報を消す作業を行う。</p> <p>（尚、通常の蔵置貨物は下記⑦～⑩の通りシステム活用ができています）</p>	<p>下記、通常の蔵置貨物（IS後のシステム管理貨物ではないもの）につきIM申請を行う場合と同様の仕様とされたい。</p> <p>⑦IDA（事項登録）時にIMを選択しても貨物情報DBを利用できる。</p> <p>⑧IDC（申請）をすると貨物情報に申請を行った旨が登録される。</p> <p>⑨IM承認後に貨物情報に承認の旨が登録される。</p> <p>⑩保税蔵置場にも承認の旨の情報は配信され、また、搬出確認登録（BOA）ができる。</p>	<p>・申請作成時に貨物情報を利用することができる。</p> <p>・貨物情報にて作業の進捗状況が確認できる。</p> <p>・保税蔵置場でIS後IM貨物のシステム管理ができる。</p> <p>・税関側での貨物情報を強制的に消すという不自然な作業が不要となる。</p>	<p>費用対効果の観点から実施は困難です。なお、業界全体のニーズとしてご要望があれば、再度、提出ください。</p>
H30-140	新規業務		一括輸出許可内容変更申請（仮称）	混載業者(NVOCC)が予定されたコンテナ詰場所が変更となった場合は、輸出許可ごとに「輸出許可内容変更申請」を行っている。	仮称「一括輸出許可内容変更申請」業務を追加して頂きたい。（但し変更対象は自社通関分）	業務省力化	改修規模が大きいため、費用対効果の観点から実施しません。
H30-141	包括保険申請業務	HHA HHC	全て包括保険申請に係わる事項です。 1. パスワードの連絡方法 2. パスワードの桁数 3. 保険識別	<p>1. 包括保険番号とパスワードが同じ紙面（包括保険登録情報PDF）に記載されている。</p> <p>2. 現在のパスワード桁数は4桁。</p> <p>3. 保険識別「O&F」</p>	<p>1. 包括保険登録情報PDFにはパスワードを記載せず、パスワードのみ別ページで連絡する仕様に変更していただきたい。</p> <p>2. 4桁ではなく桁数を増やしていただきたい。</p> <p>3. 保険識別「OFR」にした方がよいと考えます。</p>	<p>上記3点は、いずれも輸入者様（弊社のご契約者様）より頂戴したご要望です。</p> <p>1および2についてはセキュリティ上の観点からご変更を望まれております。</p> <p>宜しくお願い致します。</p>	<p>1については、現時点では費用対効果の観点から実施しません（現行仕様は更改WGでの結論を踏まえた仕様であり、今後、利用件数が増加し、利用者様からの要望度合等を踏まえて、将来的に見直す可能性はあります。）。</p> <p>2については、更改WGでの検討結果を踏まえて決定した桁数であることから、当面は変更を実施しません。</p> <p>3については、包括保険のみの検討ではなく、申告系業務も含めて更改WGにおいて検討を行い、「O&F」を継続使用としたものであり、変更は行いません。</p>
H30-142		HHA	NACCS画面（HHAおよびその他関連画面）について、以下2点の改修をお願いいたします。 処理内容の表記変更 (1)「料率変更」→「登録内容変更」 (2)「訂正」→「損保項目訂正」		<p>現行の表記では、処理内容の選択を誤る可能性があるため、分かりやすい表記への変更を依頼するもの。</p> <p>「料率変更」：料率のみならず、登録内容全般の変更の際に選択「訂正」：損保用の3項目を変更する際に選択</p>	<p>各荷主・損保における正確かつ迅速な電子包括申請が可能となり、利用推進につながる。</p>	<p>更改WGにおいて決定した事項であり、当面は変更いたしません。</p>
H30-143	リアルタイム口座帳票要否呼出し	URK11	①業務可能時間②輸入申告毎に選択できるようにしていただきたい	URK11でリアルタイム口座振替完了通知書を出力するか否かの設定ができる時間は9:00～17:00であるにも関わらず、輸入申告が可能な時間は8:00～17:45である。8:00～9:00、17:00～17:45はURK11ができない。	①URK11業務可能時間の24時間化②URK11で行った設定が事務所内のすべてのNACCS端末に反映されるのではなく、輸入申告毎に選択できるようにしていただきたい。	①当該業務の稼働時間を気にすることなく輸入申告が可能となる。②ペーパーレス化の実現	①URK業務の実施可能時間については、本年4月2日から平日00:00～23:00に変更いたします。 ②IDA入力項目に新たな項目を追加する事は自社システム等への影響が大きいため実施しません。
H30-144		ACL01	ACL業務での画面処理（ファイル印刷）からの印刷において受信（出力コードSAT135）と同様に2ページ（枚）のレイアウトで印刷できる、またはカスタマイズ印刷が適用できるように改修してもらいたい。	ACL業務で登録した内容を画面処理（ファイル印刷）から印刷すると6ページ（枚）の紙が出力される。			入力する画面をカスタマイズすることは出来ません。
H30-145		ACL01	ACL01業務での重量・容積（共通部の合計グロス重量・容積と繰返部コンテナの各グロス重量・容積の不一致を致判した場合には、アラートを表示して登録送信を中断し、開いている画面で訂正を再入力して送信できるようにする。	ACL01業務での重量・容積（共通部の合計グロス重量・容積と繰返部コンテナの各グロス重量・容積が不一致となった場合でも送信は正常終了する。			一律エラーとした場合には利便性を損なう場合もあるため、実施しません。なお、ワーニングは更改WGでの検討の結果、出力する仕様としています。
H30-146	MSB（添付ファイル登録）	MSB		MSB（添付ファイル登録）ファイル添付時、複数一週に添付することが出来なくファイルが複数ある場合にひとつひとつ添付していく為、時間を要する。	MSB（添付ファイル登録）ファイル添付時、複数一週に添付することを可能として頂きたい。	端末入力、船会社手続きの円滑化。	ご要望につきましては、既に複数選択およびドラッグアンドドロップが可能となっておりますので、当該機能をご利用ください。

No.	業務内容	業務コード	変更等事項	現行内容	変更等要望内容	効果	検討結果
H30-147	パッケージソフトのオプション設定			端末入替時に、新端末に旧端末と同様の設定をゼロから登録する必要がある。	旧端末の設定のエクスポート等を行い、新端末にインポート等できる機能の実装。または、端末入替を簡略化できる機能の実装をお願いしたい。	端末入替作業の費用および負担の削減。300台の端末入替に準備を含め350時間を費やしている。	NACCS更改時におけるPSのオプション設定の関してのご要望であれば、引継ぎを可能とする対応はできません。一方、通常の場合であればPSについては、設定ファイルをコピーする事で対応が可能となっています。
H30-148	掲示板における業務仕様書の掲載方法			全ての業種に対する業務コードや業務仕様書がNACCS掲示板の同じ場所に（一つの場所にまとめて）記載されているため必要な業務コードを検索しづらい。	次期NACCSでは使用できる業種、業務が増えるので業務コードや業務仕様書を業種別に分けて検索し易いようにしてほしい。	exa 通関業・海貨業などのインデックスを付ける等	業種毎に利用可能な業務コード一覧については、既に掲示板に掲載を行っておりますので、ご利用ください。